

# TAKI no TAWAGOTO

By 濱 博一

本欄担当は、書くと約束してくれましたが…締め切りは過ぎ時は流れてゆき…。今月も毎度代筆で失礼致します。

能登半島地震から一年半以上経った先月末。石川の魅力を海外に発信しようと、海外のライターの眼で取材して英文のブックレットを発行するプロジェクトのお手伝いをしました。

同行のカメラマンは、NY在住の日本人の方。国連での受賞経歴もお持ちの方でした。この方がとても気さくですぐに被写体の方と打ち解けて抜群の表情を引き出してゆきます。道中ずっとプロの撮影をつぶさに拝見させていただきました。私も恥ずかしながらデジイチを持参していったので、失礼とは思いつつ横で邪魔にならないように撮影の真似事をしていたのですが、嫌がるどころかプロの技を少々教えていただきました。

そのうち一つは「引くのではなく寄る」

被写体に対して何処に立つかは、基本的な構図に影響します。距離を置いて引けば全体が撮れますが、迫りに欠けます。ギリギリまで寄る事で望遠レンズに頼らず、迫力が出せます。

もう一つは、シャッターの切り方。最近は手ブレ防止機構がカメラに搭載されることが当たり前になっていますが、暗い場所で三脚を立てられない場合はやはり手振れが一番の問題です。曰くシャッターは押すのではなく、絞れ。イメージとして雑巾を絞るようにシャッターを切ると2～3段階違ってきました。この意識をすることを是非お勧めします。V(^)v



6月に発生した岩手・宮城内陸地震の被災者の皆様に心より、お見舞い申し上げます。

さて、この震災は専門家の緊急調査で、**これまでに無いほど被災地区が狭い範囲に限定されている**ことが明らかになりました。**東北の殆どの地域・観光地は全く無事**です。

にも拘らず連日の報道により、広域災害と誤解され、旅行のキャンセル・予約が入らない状況が既に東北全域に及んでいるようです。**被災周辺地域への風評被害は、経済復興の最大の障害**であり、被災地をフォローする周辺地域に対して余りにも冷酷です。どうか冷静な情報収集と判断をお願いいたします。(濱)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2008/10

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2008/10

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 神意月



北海道美深 トロッコ王国にて  
by hama

**がんばれ！東北  
負けるな岩手・宮城！**

岩手・宮城内陸地震  
風評被害対策勝手連プロジェクトに賛  
同します！！

# 寄稿『この素晴らしい出逢いに乾杯！』

遠州横須賀倶楽部目付 杉浦清司

百三十年の時を超え、幻の酒「花の香」復活プロジェクト「花の香楽会」が2006年5月に酒米の田植えとともに産声をあげた。

かつて遠州一の銘酒と名を馳せた美酒「花の香」は掛川市土方（旧大東町）で明治十三年まで醸造されていた。屋号は「かごのはな」。蔵元の子孫である東京学芸大学の鷺山恭彦学長が2006年2月に帰省した折、花の香を復活させたいと地元酒造場、開運で有名な土井酒造場の社長に復活のロマンを語り、銘酒復活物語が始まる。

鷺山学長を主宰に地元有志たちで「花の香楽会」を立ち上げた。鷺山学長は「古き良き酒を現代の智慧をもって復活させる。酒づくりが仲間となり、地域コミュニティの復権にもつながればおもしろい」という。

地元をはじめ鷺山学長や世話人たちの友人・知人たち約四百五十名に呼びかけたところ、考え方の波長が合った約三百名が会員登録してくれ、ビックリ！

学会でなく楽会は、その名の通り遊び心たっぷりの集団。酒を造って販売するのが目的では

なく、理念は、ものづくりを楽しむ、ひとづくりに結び付けようというもの。初年度の花の香復活物語は、酒米の田植えから稲刈りまで会員らがこたわり楽しんだ。

新酒の蔵出し時には会員自ら焼成したマイべい香で美酒をいただき、至福の時間を過ごした。

第一楽章から最終楽章まで、人が集まりものづくりを楽しみ、その後は「ひとづくり」には重要なファクターであるノミネーションで交流を深めている。

現在は、三年目の花の香新酒を仕込もうと大人の遊びを楽しんでいる（笑）

最後に、ひとはひとりでは生きていけない、自分個人で何かできる事には甚だ限界がある。

私のモットーは出逢いと縁を大切な宝物にすることであり、座右の銘は「柳生家の家訓」。

小才は縁に出逢って縁に気付かず、  
中才は縁に気付いて縁を生かせず、  
大才は袖すりあう縁をも生かす。



【プロフィール】  
すぎつら せいじ  
J A 遠州夢咲情報処理課長

## 濟のつばやき 『かんしゃとく』

癩癩の

「く」を打ち捨てて

ただ感謝

ある方から最近伺った言葉。

素晴らしい言葉に、下手な解釈は無用なのだが…

どちらかと言うと、安っぽい正義感が強い自分。そのため、我が身のことば棚に挙げて何かと他人の言動が気になる、立腹することも少なくない。

ある時、とても無く噴火してしまい、それが一通り収まった後、自分の胃がたいそう痛むのを覚えていた。

怒りは、相手に原因があると思いついて、自分の身体が痛んでしまう。これはどうしてだろうか…

悩み、尋ねて歩いた拳句、至った結論。

怒りを引き起こしている元凶は、他の誰でも無い「自分の価値観」。それが証拠に、「ある言動」に対して怒る人もいれば、全く気にならない人もいて、その反応は千差万別である。一見、原因と思われる「その言動」は事実として一つであるにも関わらず…

怒りに限らず、外の世界で起こったことに対して、自分の価値観を通し、すべからず湧き起こってくるものが、感情というもののようである。

あることに対して逐次、善悪・良不良を判断している

自分の価値観。これを握っている限り、周囲の出来事に対して延々と裁いてしまう。その結果が自分に跳ね返り、被る痛み。これが、怒り心頭に來て自らの胃が痛むこととなった経緯であった。

極楽・地獄があつた世にあるかどうかは判らない。が、少なくともこの世「否」この心の中にあることだけは間違いないとつた。

他人の言動で、自分の心が貪瞋痴に陥る。

それは、自分の外の出来事に、善悪の判断を下した自分の感情の炎に、自分の心身が焼かれて苦しむことだ。癩癩の苦とは、こういうものなのであつた。

氣に食わない奴に出会う

氣に食わない事に出遭う

それは、自分がその善悪を判断する価値観を握り締めているからだとも言える。

一見氣に食わない相手は、気づきにくい自分の価値観を、なんと有難くも知らしめてくれている存在だった。

気づかせてくれて有難う。嫌な役を引き受けてくれて有難う。そう感謝に転化できれば、一転して幸せになれるのではないだろうか。

癩癩の「く」を打ち捨てて、ただ感謝

次々と起こってくる巷の出来事に瞬間瞬間、一瞬に怠りも無くできるようになるには中々どうして、ということではあるのだが、この三十一文字に込められている意味は深い…

きただより32 ノースアジア大学 上村 康之  
『2010年東北新幹線青森開業に向けて(1)』

9月中旬に青森市を訪れた際にはじめて目にしたのだが中心商店街の街路灯には、「結集、青森力 東北新幹線青森開業2010」のフラッグが掲げられていた。新幹線駅は青森駅から西に約4kmに位置する奥羽本線の新青森駅であり、実際の開業は2011年3月が有力と見られている。

これから東北新幹線青森駅開業までの間、標題について不定期に筆者の故郷である青森について、本コラムの場をお借りし私情も含めながらエッセイを書かせていただくことをお許し願いたい。読者は北陸地方の方が大半かと思うが、北陸地方も新幹線開業を控えており何か話のネタにでもしてくれれば幸いである。

東北新幹線は現在、青森県八戸市まで開業している。八戸開業は2002年12月、青森県で開催された第3回冬季アジア大会にあわせたものであり、青森県もまず盛岡～青森の開業よりも、まず盛岡～八戸の先行開業を選択した。

新全国総合開発計画(二全総)にて整備新幹線が掲げられてからほぼ40年、実に長い年月であった。整備新幹線不要論や盛岡以北は、ミニ新幹線案などが出されるなど紆余曲折があった。

新幹線が開業すると、現在、青森～東京の所要時間は八戸乗換えで4時間10～20分であるが、約30分ほどの時間短縮が見込まれている。1982年の新幹線が盛岡開業前は青森～東京の所要時間は8時間30分が所要したものが、盛岡開業後は6時間になった。盛岡～東京は盛岡開業前、6時間30分ほどの所要時間が3時間30分(現在は2時間30分)と半分近くの短縮となった。盛岡は北東北の玄関口として、青森、秋田への起点としての地位が高まった反面、青森県と秋田県は、盛岡市の hinterland(後背地)ともいえる状況が作り出されていった。

さて、青森市は2010年の青森開業を控えているが、盛岡開業から28年の歳月が流れ、時代の背景、経済状況、都市の立地環境も異なる状況もあり、当時の盛岡市が新幹線開業を契機に経験した「劇的な成長・変化」を望める状況にない。しかし、冒頭に「結集 青森力」とあるが、どのような青森力が示されるのであろうか。今回は観光についてひとつ述べたいと思う。

八戸開業時は、観光キャンペーン以外に目立った施策がなかったという一部批判があるにせよ、工業都市の性格が強く観光という色がほとんどなかった八戸市において観光客の誘致に力を注ぎ、ハードの整備だけでなく、ソフト事業を展開して効果があった。代表的なものとしては、帯広市の北の屋台村に続く「みろく横丁」や、中心街と日本でも有数の鮮魚市場「八食センター」間のワンコインバスの運行などが一例である。

青森市では、新幹線開業に向けた25のプロジェクトが構想されている。市では中心市街地活性化とも絡み、現在の青森駅前に常設の「ねぶたミュージアム」を第一に掲げているようであるが、単なるハード整備に終わらないことを願いたい。

『温泉への誘い(67) — 広島温泉 —』

著者ご本人のご希望により、インターネット版ではご覧いただけません。

## 相続について⑪

## 2次相続について

今回のケースは、他の家に嫁いでいる姉妹の相談です。

## Case Study

桜井さん（仮名）は兄と妹の3人兄弟でした。

実父が無くなったとき、父母と同居していた兄がほとんどの遺産を相続し、桜井さんと妹にはわずかな現金をもらったただけでした。

ところが、その後母親も亡くなってしまったのですが、兄は父親のときに遺産分けは済んでいることと、自分が母親と同居して面倒を見ていたことをあげ、今回は分ける必要は全く無いということでした。

今ひとつ釈然としない桜井さん姉妹。いわゆる2次相続のときは、遺産は全く分けてもらえないのかというものです。

## Anser

父親の相続と、今回の母親の相続は基本的には全く別の話です。

また、兄が母親と同居して面倒を見ていたとはいえ、母親の財産の処分を一人で勝手に決めることはできません。

兄と桜井さん姉妹の3人で均等に分けられるように話し合うことが大原則です。

ただし母親が介護状態などで、同居していた兄が大変苦労したなどという場合は、寄与分が認められますので、全く均等に分けることはできなくなりますのでそのことも含めてよく話し合ってください。

もし、兄が話し合いに応じないなどということで、3人の仲が悪くなりそうな場合には、家庭裁判所の調停を活用されることをお勧めします。

また父親の相続のとき、相続放棄の手続きをしていたとしても、母親の相続の時には全く別話になります。

つまり相続の権利がありますので、ご兄弟できちんと話し合ってください。

（先月号つづき）7:30意気揚々と登山口に立った我々3人は、さっそうと7,8合目あたりを目指した。この時も頂上を目指す気などさらさらない。でも安全を祈願して歩き出してすぐにあった「古御岳（こみたけ）神社」で拍手（かしわで）を打った。

陽は強かったが、暑かったので、半袖、首にタオルを巻くこともせず、靴は以前職場で作業用に支給された靴で、装備は褒められたものではなかった。これが後で、そして3日間に亘って体を大いに苦しませることなろうとは予想していなかった。

隣を見るとアベックが、女性は何とサンダル履き！おいおい大丈夫かい。それでも7合目までは一緒だったので驚きだ。途中彼女は裸足で歩いていた。登りはまだいいけど、帰り道は砂走りと言って火山礫が積もったところを滑り降りてくるから裸足ではとても無理だ。現に私の高級作業靴のゴム底は下山時にはがれてしまった。

新五合目からミヤマハンノキの林を歩く。時折、鶯の声も聞こえてくる。二つ目の鳥居を過ぎると気の背丈が低くなり、ようやく新六合目（標高2400m）。一息つき、本六合目を目指す。まだまだ快調。年配の方の登山者も結構多く、杖を両腕に持ち、力を振り絞って登っている人もいる。

登山道が堆積した火山礫に変わってくると、踏みしめる足がずれ下がる。これが実に体力を消耗する。そのうち空気が薄くなってきていることに気づき、10mも歩けば息も絶え絶え、しばらく休み、息を整える。ゆっくり登り続ければ良いと思うが、それができないのだ。コツは人が歩いた多少締め固められた足跡を辿って登る。ずり下がる量が少ない。そこを10m程一気に歩くのだ。そして休む。この繰り返しの中々調子いい。でも歩いているうちに顔が蒼ざめてきている感あり。いよいよ高山病かな。横にうずくまっている人を時折見かけるようになった。

やっとの思いで山小屋にたどり着く。まだ七合目かぁ。リュックの水が底を付いた。たまらなくコーラが飲みたくなった。ここ何年も飲んだことがなかったが、炭酸でスッキとしたかった。ワンコインと引き換えた。100円じゃない500円である。（つづく）。

